

1 取組の概要

目的

へき地診療所でも検診異常や上腹部痛の検査等の目的に上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）を行うことがある。特に自治医大卒業生はその要望に応えるために訓練を受け、ある程度は可能であるが、その実施、精度に不安をもっている医師も多い。そこで霧島市立医師会医療センターの消化器専門医がへき地での上部消化管内視鏡検査の実施の支援を遠隔（オンライン）で行った。

支援機関

霧島市立医師会医療センター

被支援機関

屋久島町永田へき地出張診療所

支援方法

被支援機関の内視鏡モニタの画像出力端子から画像取り込みキャプチャーボードを介してパソコン内へ内視鏡の動画を取り込む

支援病院との間でZoomを使用し、実際の内視鏡動画を見ながら内視鏡所見の読みかた、検査手技等の指導を行った。

実施

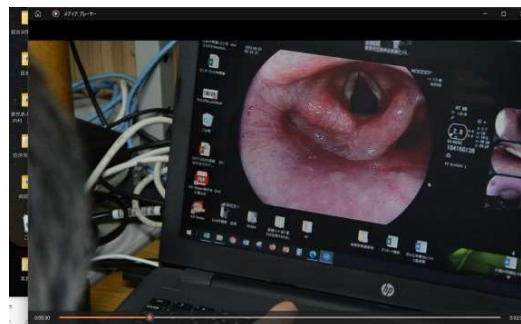
2023. 6. 21, 9. 20 の 2 回 AM9:00-9:30

屋久島町永田へき地出張診療所内視鏡室と霧島市立医師会医療センター内視鏡室

※取組事例に関連する写真①



※取組事例に関連する写真②



2 導入の背景, 目的

へき地診療所でも検診異常や上腹部痛の検査等の目的に上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）を行うことがある。特に自治医大卒業生はその要望に応えるために訓練をうけ、ある程度は可能であるが、その実施、精度に不安をもっている医師も多い。そこで霧島市立医師会医療センターの消化器専門医がへき地での上部消化管内視鏡検査の実施の支援を遠隔（オンライン）で行った。

3 導入時の課題, 対応策

モニタからの画像取り込みに必要なキャプチャーボード、院内 LAN 等の通信設備の整備、パソコン等が必要となる可能性あったが、屋久島町の予算で採用された。

4 効果

2回とも画像は良好にみることができ、通常診療のレベルでは十分であると思われた。

2症例目は咽頭をこえ食道に挿入するのが困難な症例で、霧島市立医師会医療センターの医師の指導で無事に挿入できた。

5 今後の課題

- ・ 遠隔診療の中でも現地の医師が行っている内視鏡画像を介した間接的な診療であり、このような形態の診療が保険診療として認められるのか（CTとは違い静止画ではない）
- ・ 診療中には当院の医師の声が患者さんに聞こえないような配慮（インカム使用）
- ・ 個人情報の保護
- ・ 患者さんからの同意の取得
- ・ 診療報酬
- ・ トラブル時の責任所在

6 その他（自由記載）

今回は内視鏡を遠隔支援できるかということを考え Zoom を使用し、D to P with D の状況での遠隔診療を企画し、施行した。

施行前に院内内視鏡室から診察室で Zoom を使用した評価が可能である事を確認した上での施行であった。

屋久島町永田へき地出張診療所の医師は当院で内視鏡研修を行った経験があり、意思疎通も図りやすく、役場の協力も得られ、同院でのビデオキャプチャー等の準備もスムーズにしてもらうことができた。

Zoom 設定には当院の情報システム担当職員の手伝いもらったが、トラブルなく施行できた。無料の Zoom では時間制限（1 時間）があるが、その範囲内で施行でき、画像もかなりきれいにみることができた。通常診療のレベルでは問題ないと思われた。

- ・ 遠隔診療の中でも現地の医師が行っている内視鏡画像を介した間接的な診療であり、このような形態の診療が保険診療として認められるのか（CTとは違い静止画ではない）
- ・ 診療中には当院の医師の声が聞こえないような配慮（インカム使用）
- ・ 個人情報の保護
- ・ 患者さんからの同意の取得
- ・ 診療報酬
- ・ トラブル時の責任所在

等も検討が必要になると思われる。

施行医の実力にもよるが、実際に行うとかなりの診断も可能で、患者さんがへき地にいながら、専門医の診療を受けられるメリットは大きく、施行医は安心して施行し、また、やり方（受け方）では技術の取得にもつなげられる有用な支援手段であると思われた。

